

本年度の総会 5 / 1 3 に東京で

前号で案内した通り、本年度の開発教育協議会総会は 5月13日に、東京都新宿区西早稲田2-3-1の早稲田奉仕園セミナーハウス102号室で開かれた。議題は例年と同じく、前年の活動と収支決算の報告、今年度活動方針と予算の確定、役員を選出であった。活動方針の確定にあたっては、昨年度実施した「中期計画策定のためのアンケート」の結果を参考にしていることもあって、議題とはすこし離れた形で、これからの協議会の働きについて幅の広い討議ができるように工夫がこらされた。その結果は、またこのニュースレターあるいは機関誌でお知らせする予定。

ヨーロッパ評議会関係会議の
開発教育報告

ヨーロッパ議会が昨年の初めに開発教育について決議した、と昨年9月のこのニュースレターで紹介したが、それに対して関係委員会はこれまでに開発教育についてどのようなことがなされてきたかを振り返る回答を出した。それによると、

- 1)中等教育において、すべてのヨーロッパ人が他の諸国と文化に尊敬と連帯の念をもつようになること；すべてのヨーロッパ人が自分の国の市民であるだけでなく、ヨーロッパの市民であり、世界の市民であることを自覚するように教育していること
- 2)中等学校では、人物交流、学校間交流、文通などによって他の国と協力するようにしていること
- 3)ヨーロッパ評議会は1979年から1986年の間に18回の南北問題に関する教師セミナーをヨーロッパ規模で開催し、750名以上の教師がさまざまな機関や団体が主催するセミナーや交流会に参加していること
- 4)上記の諸セミナーの集約は、1986年に開

かれた「ヨーロッパの学校における世界」という主題のセミナーで行われ、学校における国際理解教育の推進には強力な政治的支持が必要であると結論されたこと

5)1987年から新しい教師対象のセミナーシリーズが始まっていること

6)1988年上半期には、南北の相互依存についてのヨーロッパ大衆キャンペーンが実施されたこと

7)南北の相互依存と連帯というヨーロッパキャンペーンに関連して、学校が果たすべき役割と責任が検討されていること

などのことが、開発教育についてこれまでヨーロッパ規模でなされている努力であると、報告されている。

子どもの権利条約 採択へ

子どもだけを対象とする人権条約が国連の場で論議されだしたのは国際児童年のことだから、もう十年以上も前になるが、ようやくこの3月にその最終草案が国連の人権委員会で可決され、今年の秋の国連総会で採択され、発効手続きの段階に入ることとなった（昨年7月のニュースレターで一

部報告)。

最終案は前文と54条から成っているが、第1条で子どもは18歳以下と規定され、日本の成人権年齢規定と抵触しそうである。発展途上国に多くみられる児童の人身売買については、この条約を締約する国は児童の不法移転と闘うための措置を講じ、人身売買防止を目的とする二国間あるいは多国間の協定締結を促進するとされている。またすべての子どもに対する初等義務教育も締約国の義務とされている。

地球は140億の人類に耐えるか

今年国連に人口基金が創設されて20年になるが、その人口基金が各国政府や関係国際機関、民間団体に、21世紀を目標年とする新たな決意をもって人口計画に取り組むよう呼びかけている。

人類の人口規模が1998年には60億になることはほぼ確実なようである。そこでこれからの十年間の人口計画努力が、人類が21世紀においても地球上に生存しうるかどうかの分かれ目になるだろうというわけである。今のペースで人口増加が続けば、人類の人口が百億の大台に達するのは今から約百年後だろう。しかし、それは我々の努力次第で早くもなれば、遅らせることもできる、と国連人口基金はいう。人口計画事業が成功すれば、百年後の人口を80億にとどめることができるかもしれないし、失敗すれば21世紀末には140億の人口となるかもしれない。

国連人口基金はこれからの十年の努力目標を次のように設定している。

- 1)人口計画事業を5億人の女性にまで広げる。
- 2)妊婦の死亡率を少なくとも今の半分までに減らす。特に千人に一人というような高い死亡率を示している国に重点をおく。

3)乳幼児死亡率を千人につき50人位まで減らす。

4)識字率を高める。特に世界の非識字人口の98%が住む発展途上国の人口の半ばを占める女性の識字率向上に力を入れる。

5)女子の就学及び在学率の向上に努める。

6)女性の自由な結婚、土地所有と有給雇用に関する法的、社会的権利を確保する。

7)女性対象の所得向上事業を推進する。

8)国レベルの人口問題に関する専門家養成や研究能力の向上に努める。

9)人口問題と環境保全とを総合的にとらえる政策の確立を図る。

プラスのイメージをもとう

イギリスのオクスファムは、青少年向けフォトポスターで、発展途上国の人々の生活の明るい積極的な部分をちゃんと見ようと呼びかけている。次はそのためのグループ学習のひとつ。

これにヒントを得て自分でもという方は、小学校の中・高学年くらいを対象として考えればよいだろう。

用意するもの：(1)発展途上国の人々の生活や暮らしの明るい、積極的な側面を示す写真。数人のグループで見るとのだから、少し大きいほうがいい。

(2)それと対照的な、一般の新聞雑誌などに出ている発展途上国の暮らしの悲惨な光景の写真。

(3)大きな用紙、サインペン、鋏。

活動：(1)小さなグループがよい。メンバーは明るい側面の写真を見ながら、感じた疑問を出しあう。たとえば：どこの国の写真だろう；だれが撮ったのだろうか；なにをしているところかな；いくつぐらいの人だろうか；どんな関係だろうか；どう思っている/感じているのだろうか；この写真をみて感じるというのはどういうことかな；な

部報告)。

最終案は前文と54条から成っているが、第1条で子どもは18歳以下と規定され、日本の成人権年齢規定と抵触しそうである。発展途上国に多くみられる児童の人身売買については、この条約を締約する国は児童の不法移転と闘うための措置を講じ、人身売買防止を目的とする二国間あるいは多国間の協定締結を促進するとされている。またすべての子どもに対する初等義務教育も締約国の義務とされている。

地球は140億の人類に耐えうるか

今年国連に人口基金が創設されて20年になるが、その人口基金が各国政府や関係国際機関、民間団体に、21世紀を目標年とする新たな決意をもって人口計画に取り組むよう呼びかけている。

人類の人口規模が1998年には60億になることはほぼ確実なようである。そこでこれからの十年間の人口計画努力が、人類が21世紀においても地球上に生存しうるかどうかの分かれ目になるだろうというわけである。今のペースで人口増加が続けば、人類の人口が百億の大台に達するのは今から約百年後だろう。しかし、それは我々の努力次第で早くもなれば、遅らせることもできる、と国連人口基金はいう。人口計画事業が成功すれば、百年後の人口を80億にとどめることができるかもしれないし、失敗すれば21世紀末には140億の人口となるかもしれない。

国連人口基金はこれからの十年の努力目標を次のように設定している。

- 1)人口計画事業を5億人の女性にまで広げる。
- 2)妊婦の死亡率を少なくとも今の半分にまで減らす。特に千人に一人というような高い死亡率を示している国に重点をおく。

- 3)乳幼児死亡率を千人につき50人位まで減らす。
- 4)識字率を高める。特に世界の非識字人口の98%が住む発展途上国の人口の半ばを占める女性の識字率向上に力を入れる。
- 5)女子の就学及び在学率の向上に努める。
- 6)女性の自由な結婚、土地所有と有給雇用に関する法的、社会的権利を確保する。
- 7)女性対象の所得向上事業を推進する。
- 8)国レベルの人口問題に関する専門家養成や研究能力の向上に努める。
- 9)人口問題と環境保全とを総合的にとらえる政策の確立を図る。

プラスのイメージをもとう

イギリスのオクスファムは、青少年向けフォトポスターで、発展途上国の人々の生活の明るい積極的な部分をちゃんと見ようと呼びかけている。次はそのためのグループ学習のひとつ。

これにヒントを得て自分でもという方は、小学校の中・高学年くらいを対象として考えればよいだろう。

用意するもの：(1)発展途上国の人々の生活や暮しぶりの明るい、積極的な側面を示す写真。数人のグループで見るとのだから、少し大きいほうがいい。

(2)それと対照的な、一般の新聞雑誌などに出ている発展途上国の暮らしの悲惨な光景の写真。

(3)大きな用紙、サインペン、鋏。

活動：(1)小さなグループがよい。メンバーは明るい側面の写真を見ながら、感じた疑問を出しあう。たとえば：どこの国の写真だろう；だれが撮ったのだろうか；なにをしているところかな；いくつぐらいの人だろうか；どんな関係だろうか；どう思って／感じているのだろうか；この写真をみて感じるというのはどういうことかな；な

にに使った写真かな；なんで？；自分たちでちゃんとやっているのかな；などという疑問の出しあいを写真をめぐってしてみる。書き役をひとり決めておいて、出てきた疑問を記録しておく。

(2)同じように悲惨な光景の写真についても疑問をだしあう。

(3)それが終わると、ふたつの写真と、それぞれについてメンバーが抱いた疑問を書き出した紙を、黒板か壁に張りだす。そしてふたつの写真の違いや出された疑問について話し合う。

どれが正しい疑問だとか、写真のみかただという正解はない。ふだん見ている発展途上国の人びとの写真と異なるものを見て話し合うことがポイントである。

ともだち文庫第3巻 発行されました

このニューズレター第14号で予約のご協力をお願いした、アジア協会アジア友の会のアジア・アフリカともだち文庫第3巻「ちいさいおどりルートウー」は昨年12月に完成、頒布にあたっている。予約販売については約500部の個人や団体の予約があったが、まだ残部があるので、同協会では一層のご協力を願っている。

問い合わせは東京都台東区浅草橋3-25-5 芳和マンション内 アジア協会アジア友の会東京事務所(03-851-1962)

市民とアジアをむすぶ国際フォーラム
今年は11月に淡路島で開きます

このニューズレターでも何回かお知らせしたが、昨年、小田原で開かれた「市民とアジアを結ぶ国際フォーラム」は、今年は「'89関西」として11月3日から5日まで兵庫県淡路島の国立淡路青年の家を主会場にして開かれることとなった。すでに実行委

員会が発足し、フォーラム参加の募集要項を8月ぐらいに出そうと準備をすすめているが、事務局や実行委員会スタッフとしての参加や資金協力を求めている。

問い合わせは 大阪市天王寺区上本町8-2-6 大阪国際交流センター内
市民とアジアをむすぶ国際フォーラム
'89関西実行委員会(電話06-773-0256)

チャリティウォークかながわ 今年
寄付先プロジェクトを公募しています

3回目を迎える「チャリティウォークかながわ」は今年10月15日(日)10時から横浜市の中心部で行うこととし、800人の参加、500万円の募金を目標に準備をすすめているが、今年募金の寄付先を主催者が決めるのではなく、公募によることとし、2年以上の活動実績のある開発協力NGOに申請を呼びかけている。寄付はプロジェクトを対象とし、申請プロジェクトは助成型や研究型でもよいとしている。申請の締切りは5月末、問い合わせ先は 横浜市中区山下町2 神奈川県国際交流協会「KIS」内
チャリティウォークかながわ実行委員会

7月、ネグロスで海外協力と自立に関する国際NGOセミナーを開きます

日本ネグロス・キャンペーン委員会ではネグロスの民衆諸団体と共同で海外協力と自立に関する国際NGOセミナー(SELF RELIANCE AND EXTERNAL SUPPORT: THE CASE OF NEGROS ISLAND)を開くこととなった。期日は7月18日から24日までで最初の2日は視察旅行、参加費は視察旅行経費も含んで400アメリカドル。会議用語は英語。申し込みは5月上旬までに東京都新宿区新小川町1-19 日本ネグロス/キャンペーン委員会事務局 幕田さんまで。電話

研究・活動助成公募しています
庭野平和財団

庭野平和財団では本年度の研究・活動助成を公募中である。活動助成の部門には、地域レベルでの異文化・異宗教間の相互理解と協力のための活動が対象になるので、関心をお持ちの方は東京都新宿区新宿1-16-9シャンヴィラカテリーナ 庭野平和財団助成係（電話03-226-4372）まで問い合わせること。申請の受付期間は前期 5月15日まで、後期は10月1日～11月1日。

協議会事務局から

＊ 情報センターに職員
開発教育情報センターは昨年7月から月・水・金曜日の3日間、公開しているが、その情報センターに、この4月から公開日にかぎり岩佐ゆかりさんに詰めてもらうこととなった。岩佐さんには協議会事務局の仕事も担当をお願いしている。

協議会事務局は、これまでもたびたび報

告しているように、会員のボランティアによって実務が分担されてきたが、日常事務は事務局をおかせてもらっている日本YMCA同盟の職員の手を煩わせている。何人もの方々が手伝ってくださっているが、やはり4月から高橋絵里さんが新たに事務局の仕事を担当してくださることとなった。

＊ 第38回理事会

3月2日午後にかかれ、定期総会の議題と報告及び提案事項、ならびに総会運営について協議した。

第39回理事会

4月27日午後にかかれ、前回に引き続き定期総会の議題と運営について協議した。

第1回情報センター運営委員会

3月20日夜にかかれ、当面のセンター運営及び資料収集について協議した。

第20回事務局運営会議

3月2日夜にかかれ、各小委員会の作業状況が報告され、了承した。

第21回事務局運営会議

4月27日夜にかかれ、各小委員会の報告を受けて討議した。

新人・継続会員（2月23日～4月15日、敬称略、手続きの日付順）

<新人会員>

小林明子（福井） 八木沢智枝子（青森） 中西達子（京都） 細田陽子（東京） 後藤孝太郎（徳島） 湊明弘（東京） 北田博（大阪） 水野篤夫（京都） 小杉誠（長野） 恩田徹（京都） 寺田正（熊本） 堀本隆保（広島） 脇坂晴久（宮城） ワット・ジェニー（東京） 菅波茂（岡山） 穂積万智子（イギリス） 梅村松秀（東京） 加藤富子（愛知） 川島浩子（静岡） 浅田素子（兵庫） 高田光治（京都） 塩山清隆（京都） 加藤智美（滋賀） 荒井正剛（東京）

<継続会員>

安井久寿（東京） 有木香織（岡山） 醍醐一雅（千葉） 日本YMCA同盟（東京） 帝塚山学院泉ヶ丘高校（大阪） 新宗連青年会（東京） 上木敏子（大阪） 千葉定（東京） 馬越徹（愛知） 田中久美子（東京） 杉浦宣彦（埼玉） A. マタイス（東京） 岡野光男（東京） 小林ゆり（東京） 木原三彦（埼玉） 蓑田誠一（熊本） 甚田和幸（石川） 福岡享子（東京） 寺尾明人（東京） 北村理（東京） 草地賢一（兵庫）